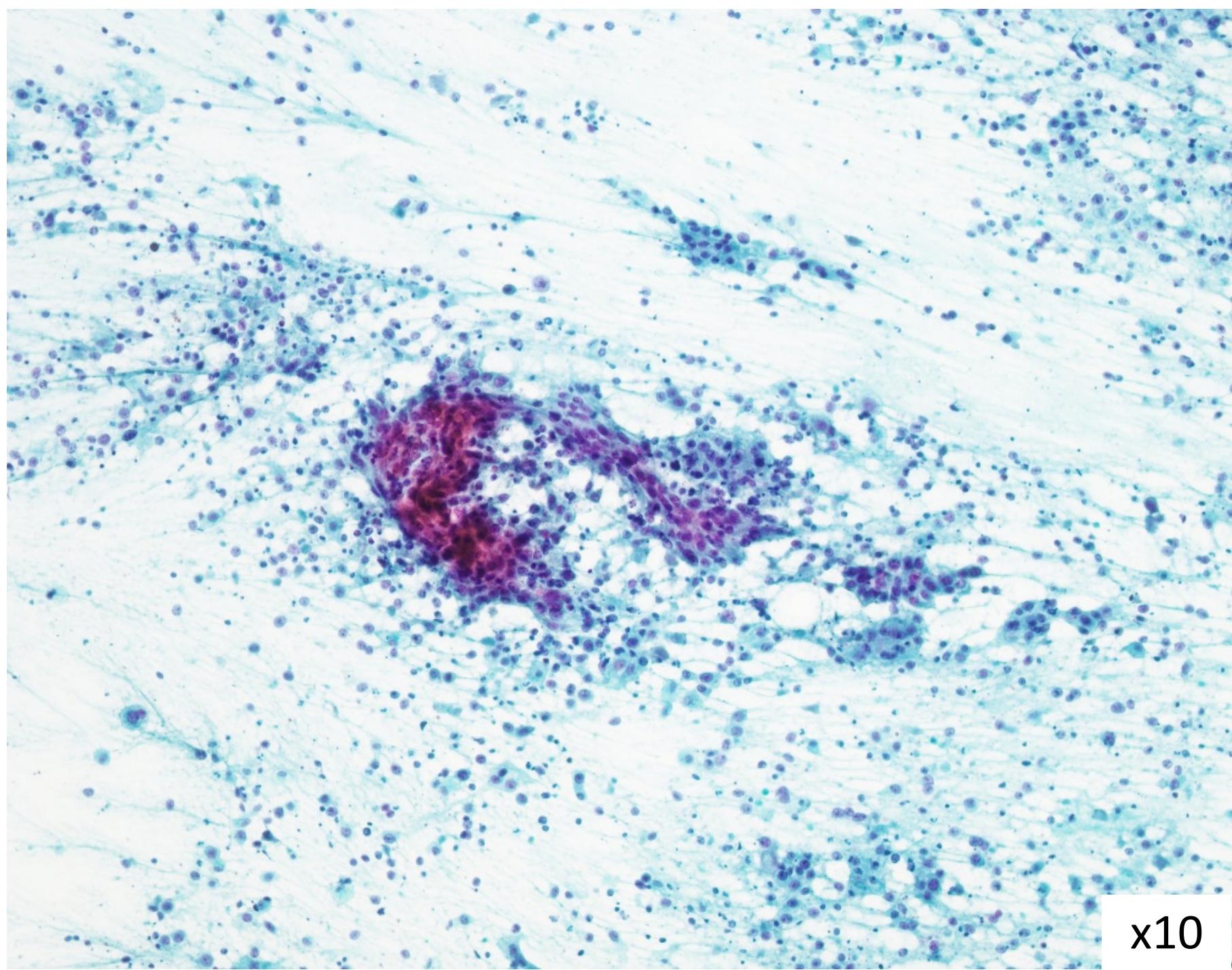
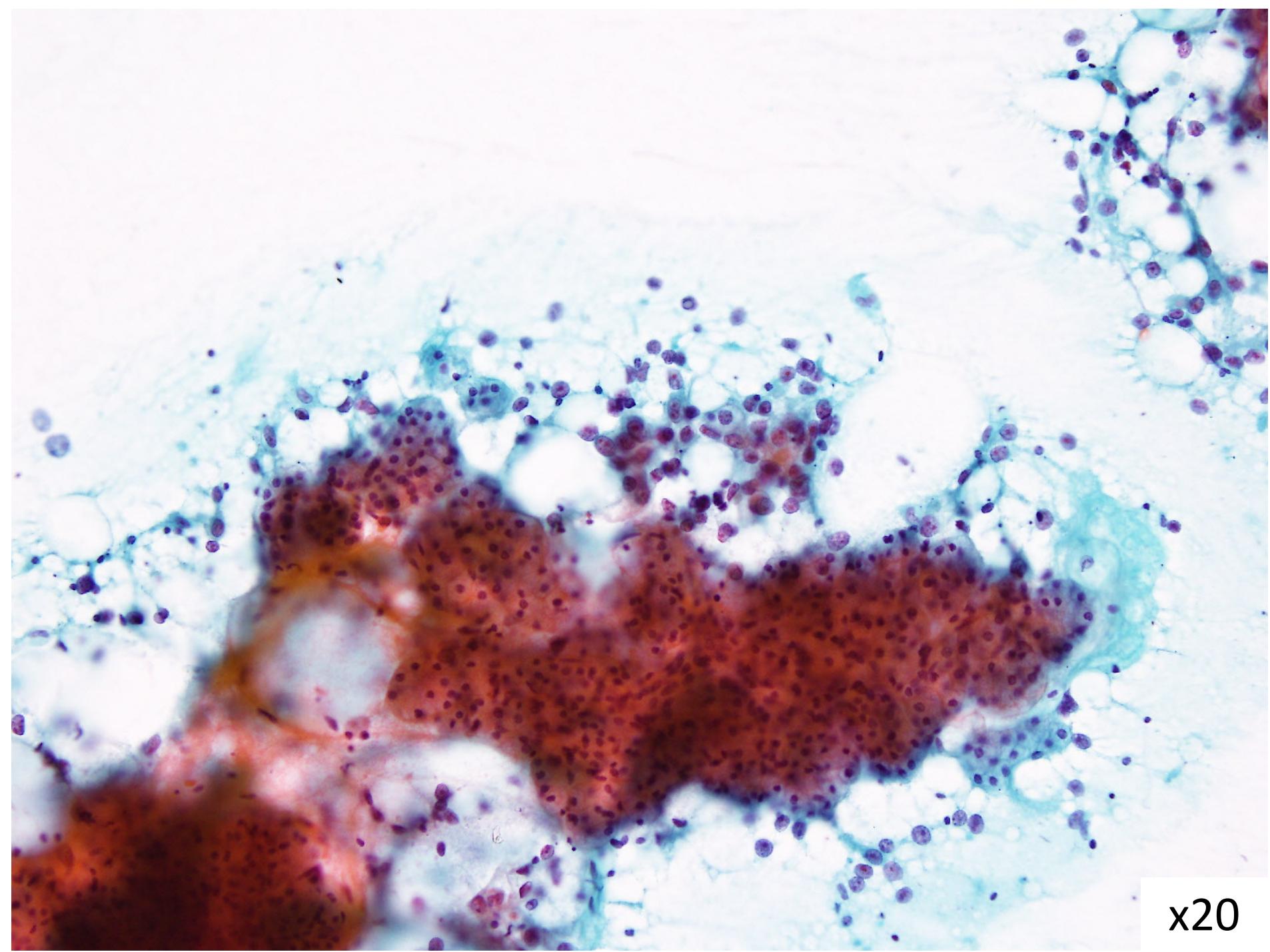


# 症例2：耳下腺

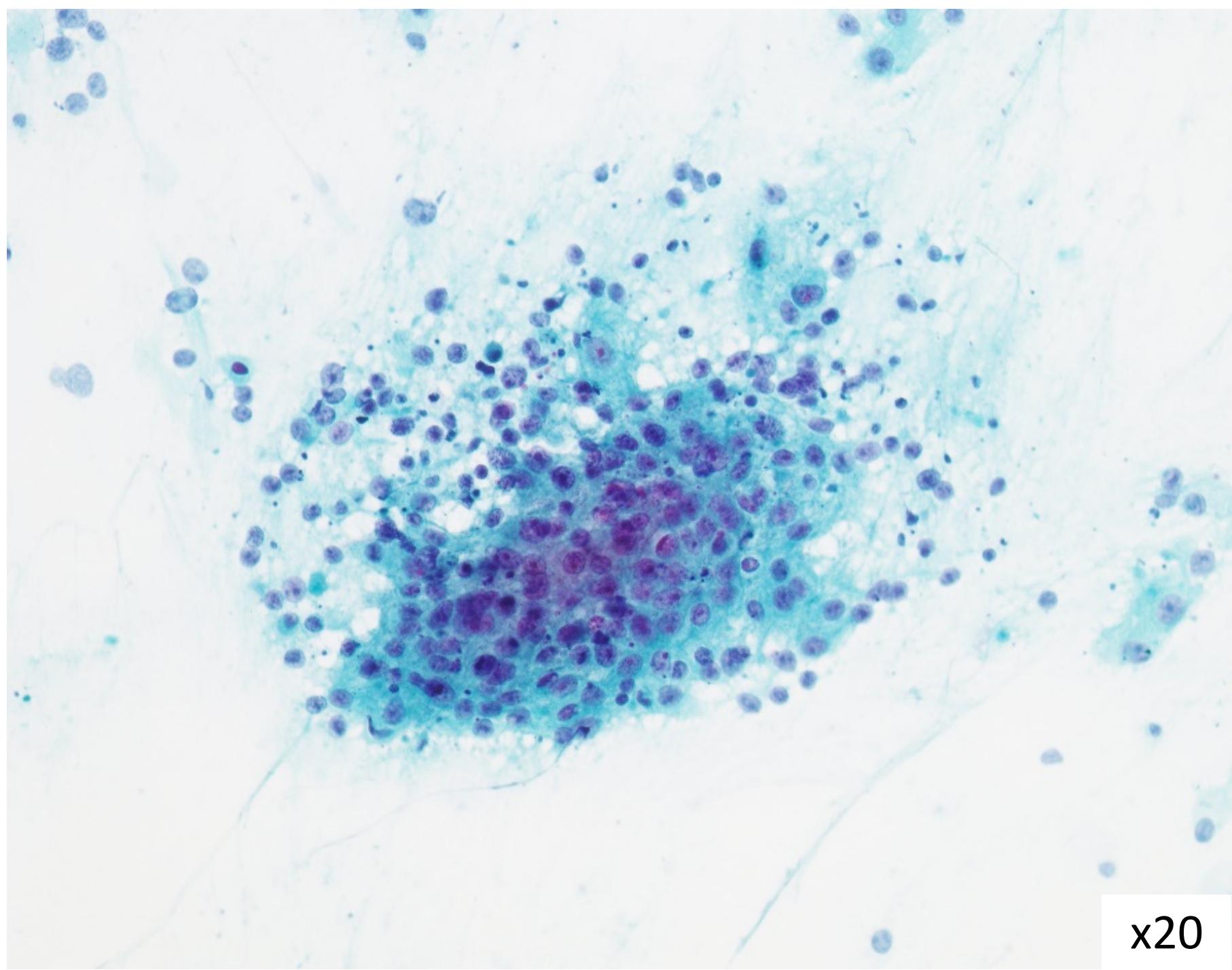
- ・症例：50歳代男性
- ・主訴：左耳下部に腫瘤自覚
- ・臨床症状：可動性やや不良、圧痛なし
- ・採取部位：左耳下腺
- ・採取方法：穿刺吸引細胞診



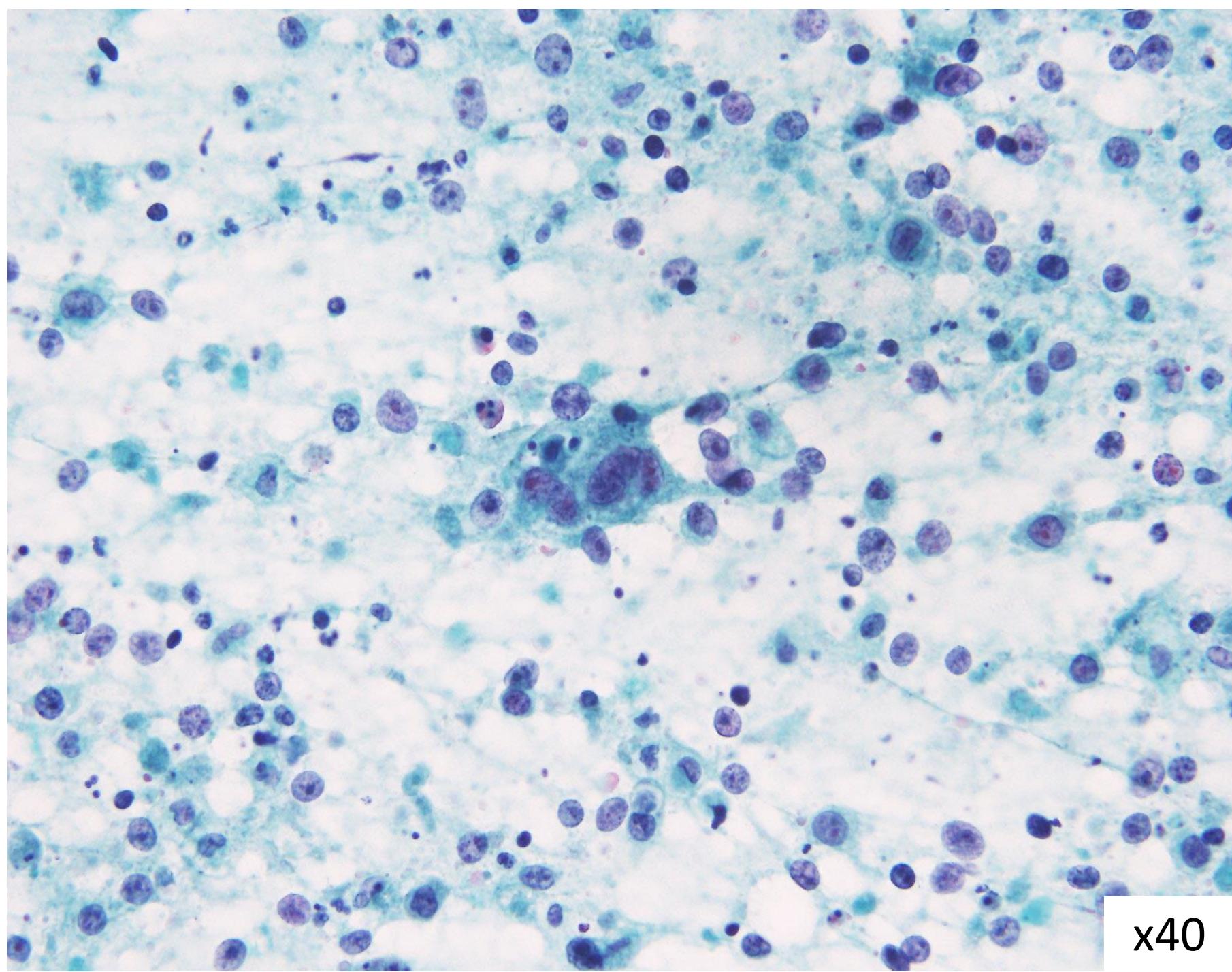
x10



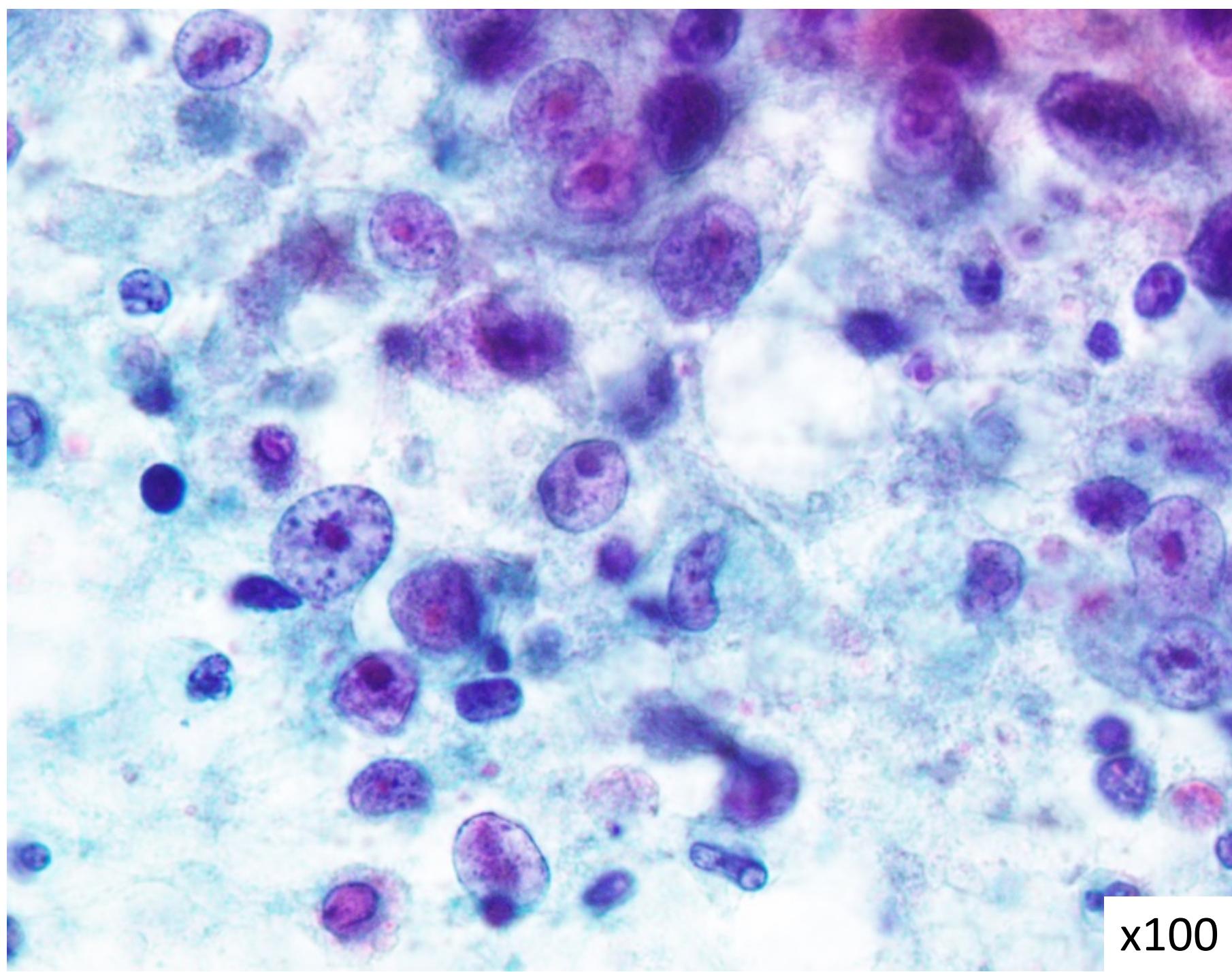
x20



x20



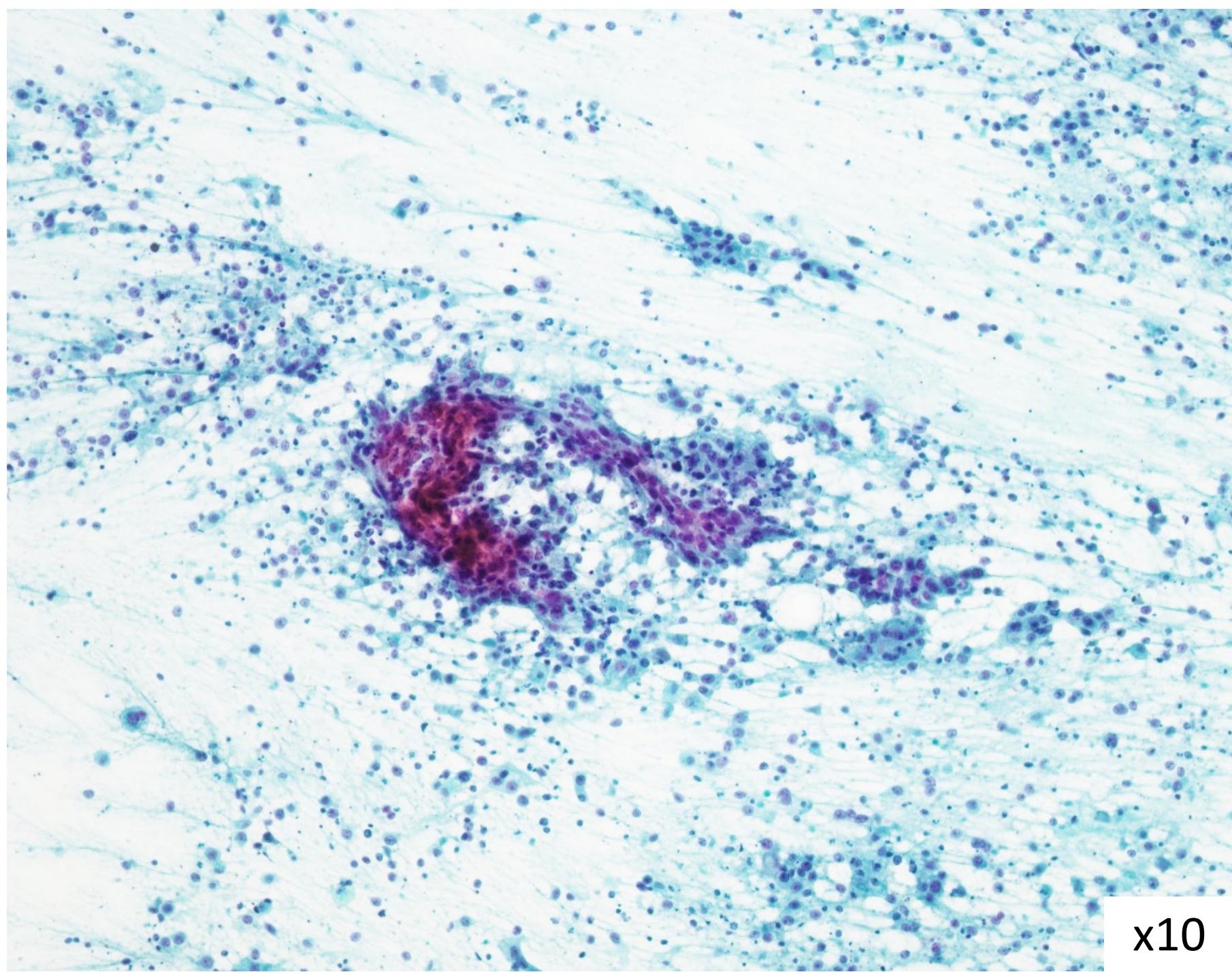
x40



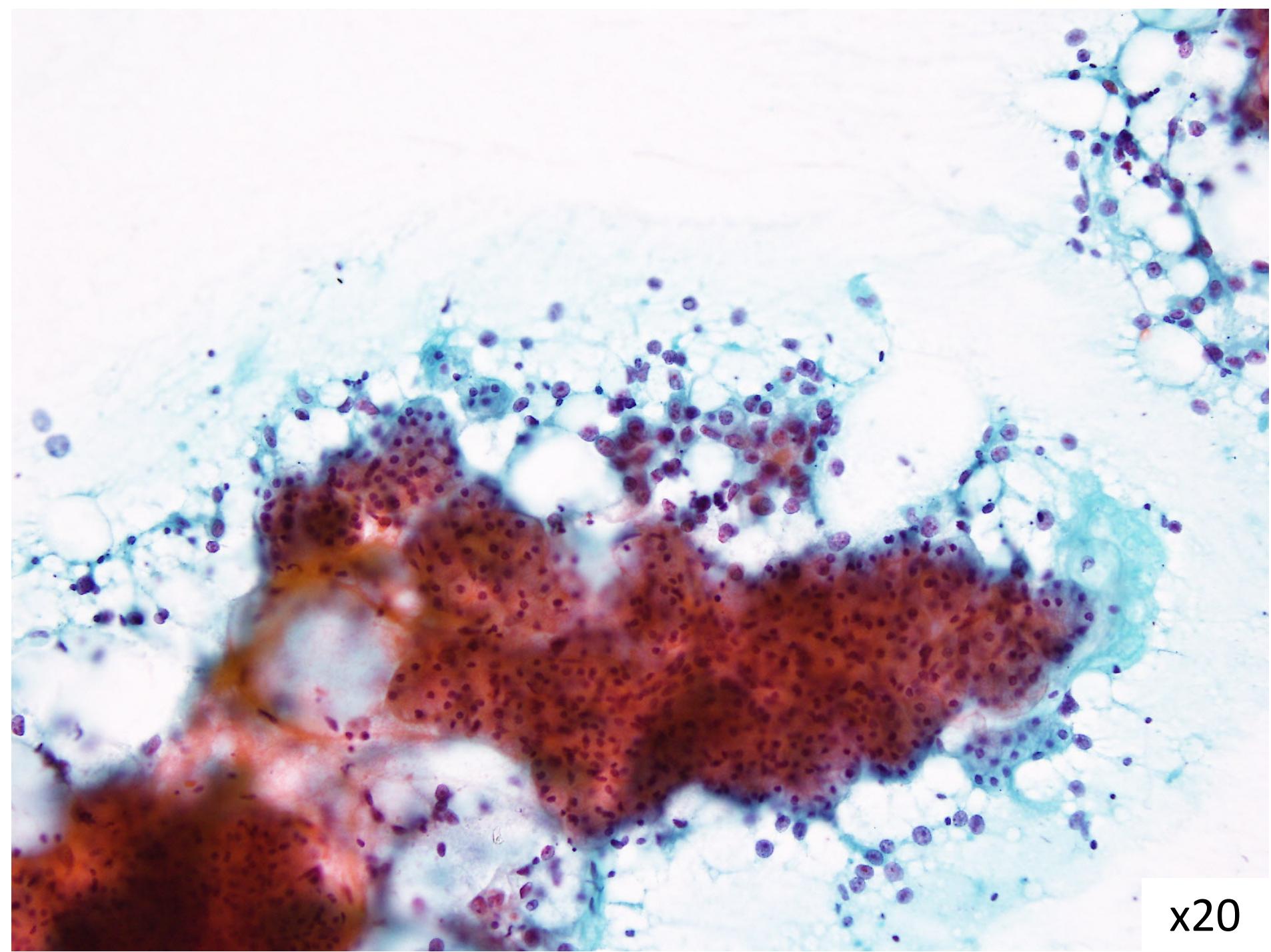
x100

# 選択肢

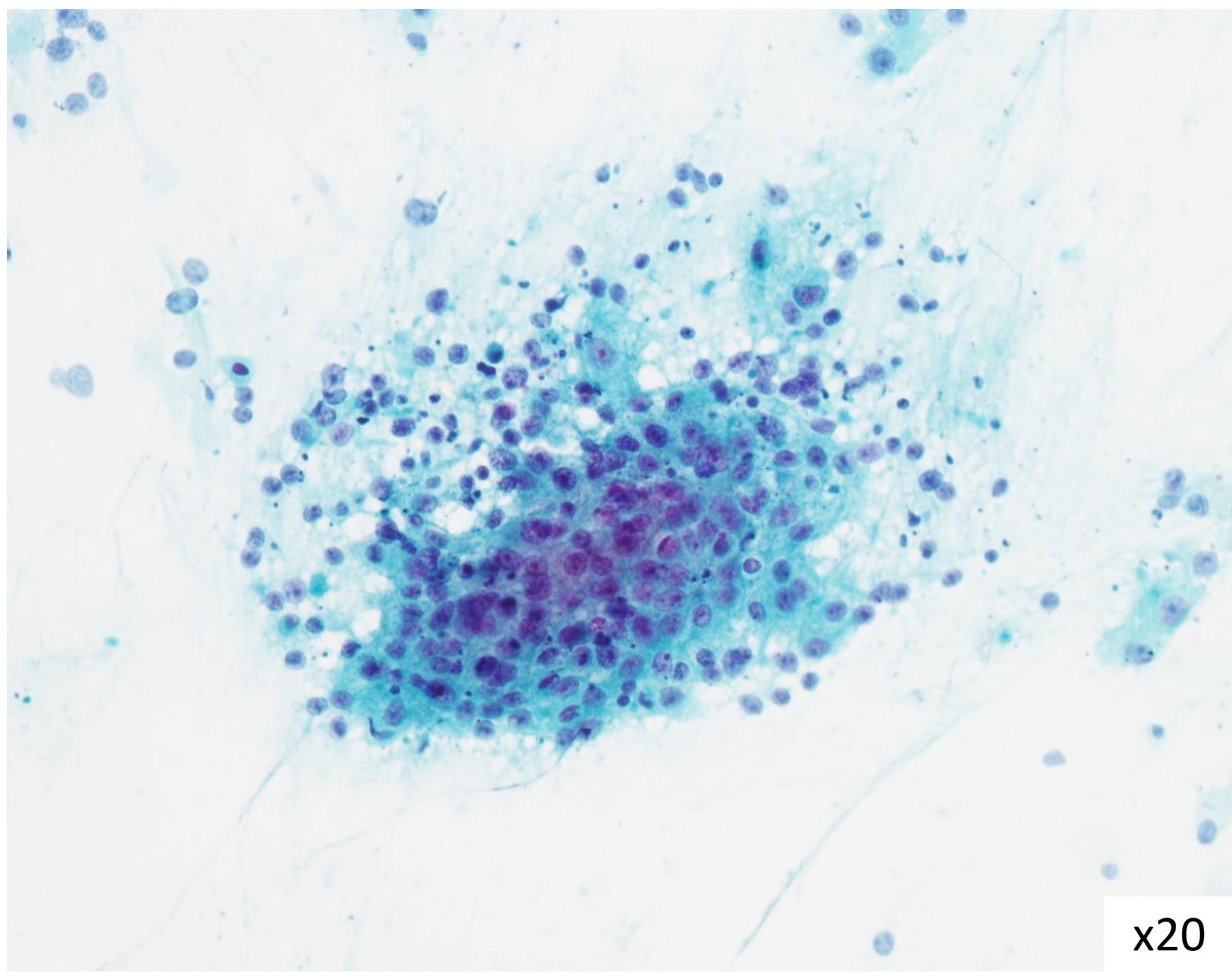
- ① 多形腺腫
- ② ワルチン腫瘍
- ③ 唾液腺導管癌
- ④ 腺房細胞癌
- ⑤ 粘表皮癌



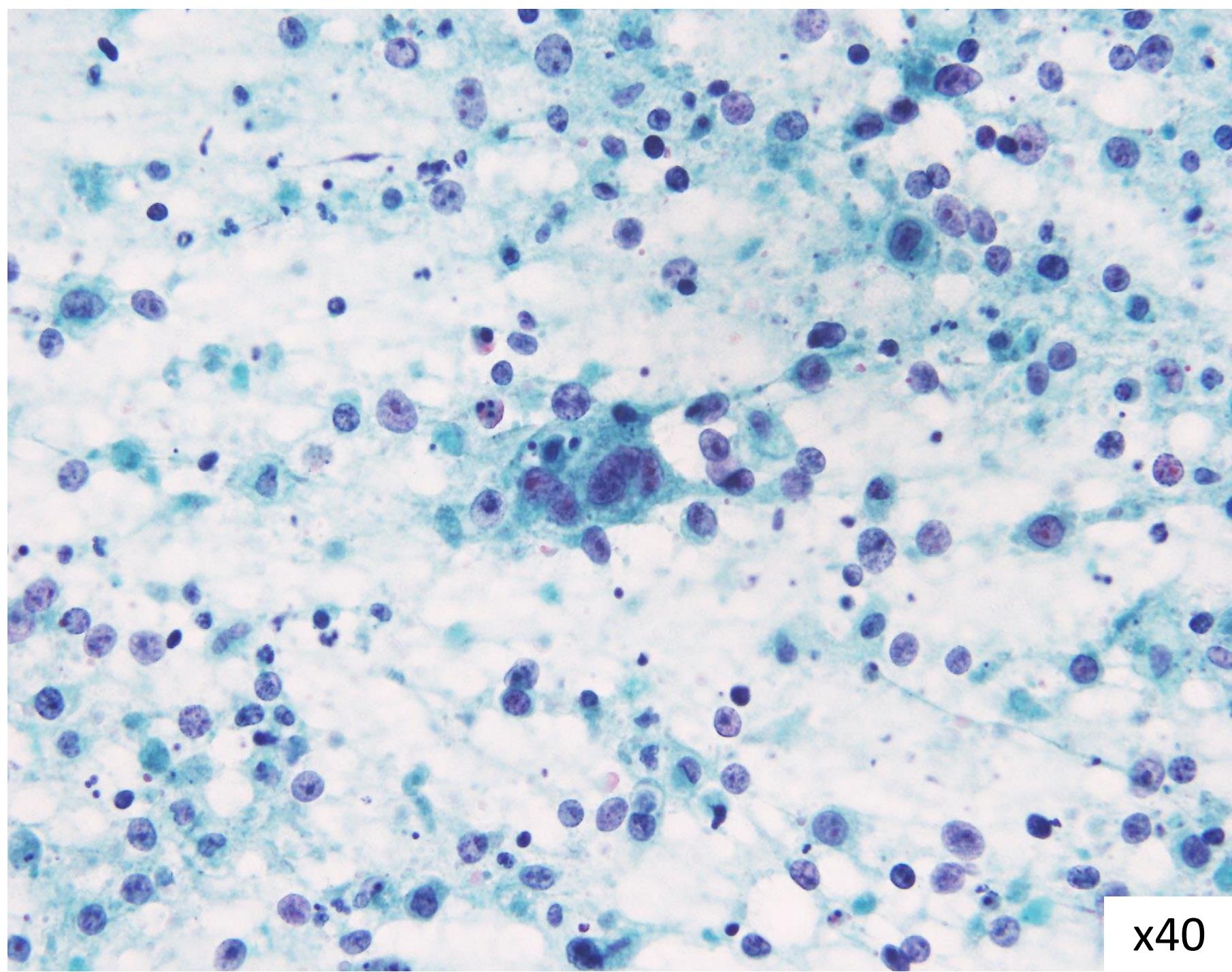
x10



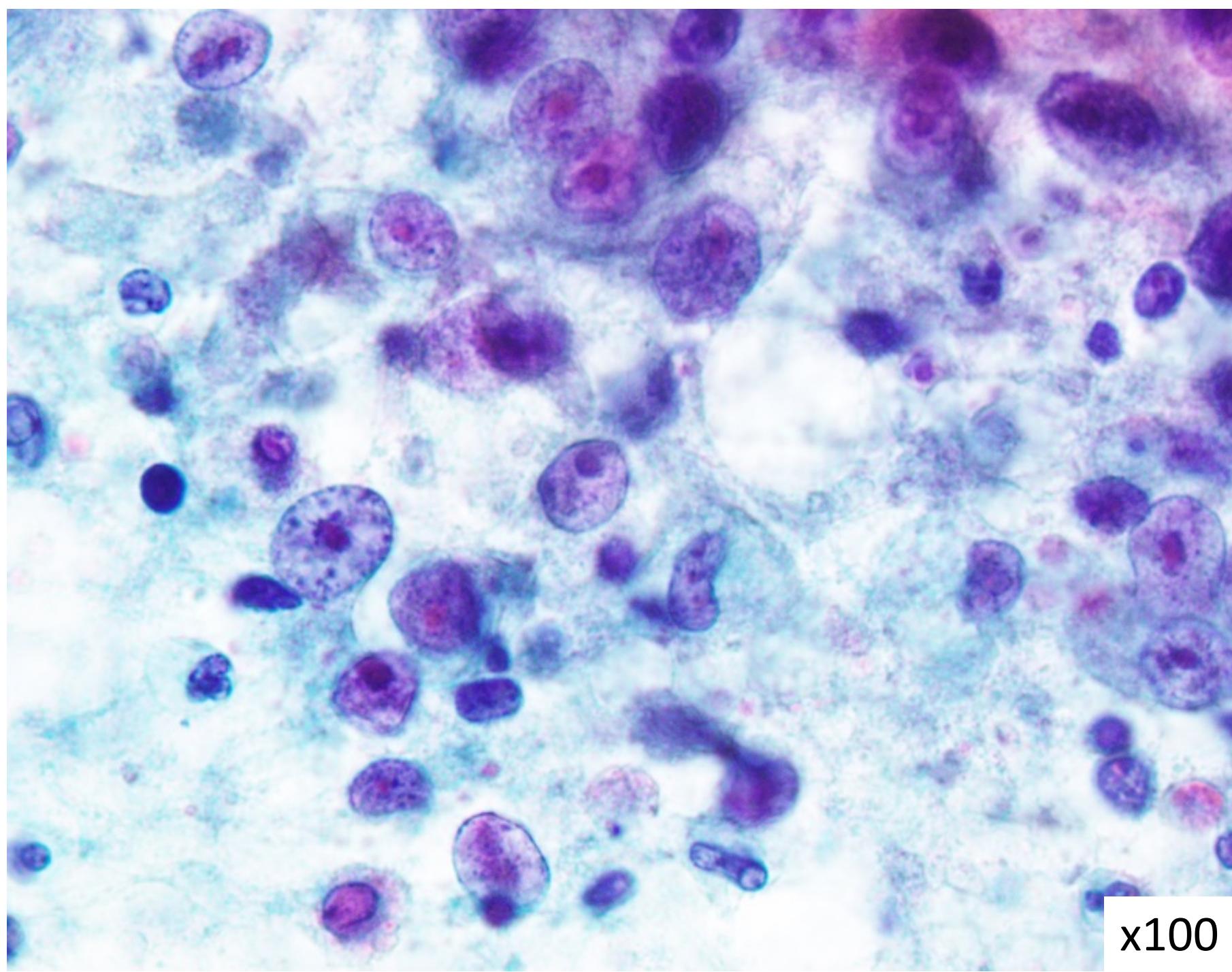
x20



x20



x40



x100

# 選択肢

- ① 多形腺腫
- ② ワルチン腫瘍
- ③ 唾液腺導管癌
- ④ 腺房細胞癌
- ⑤ 粘表皮癌

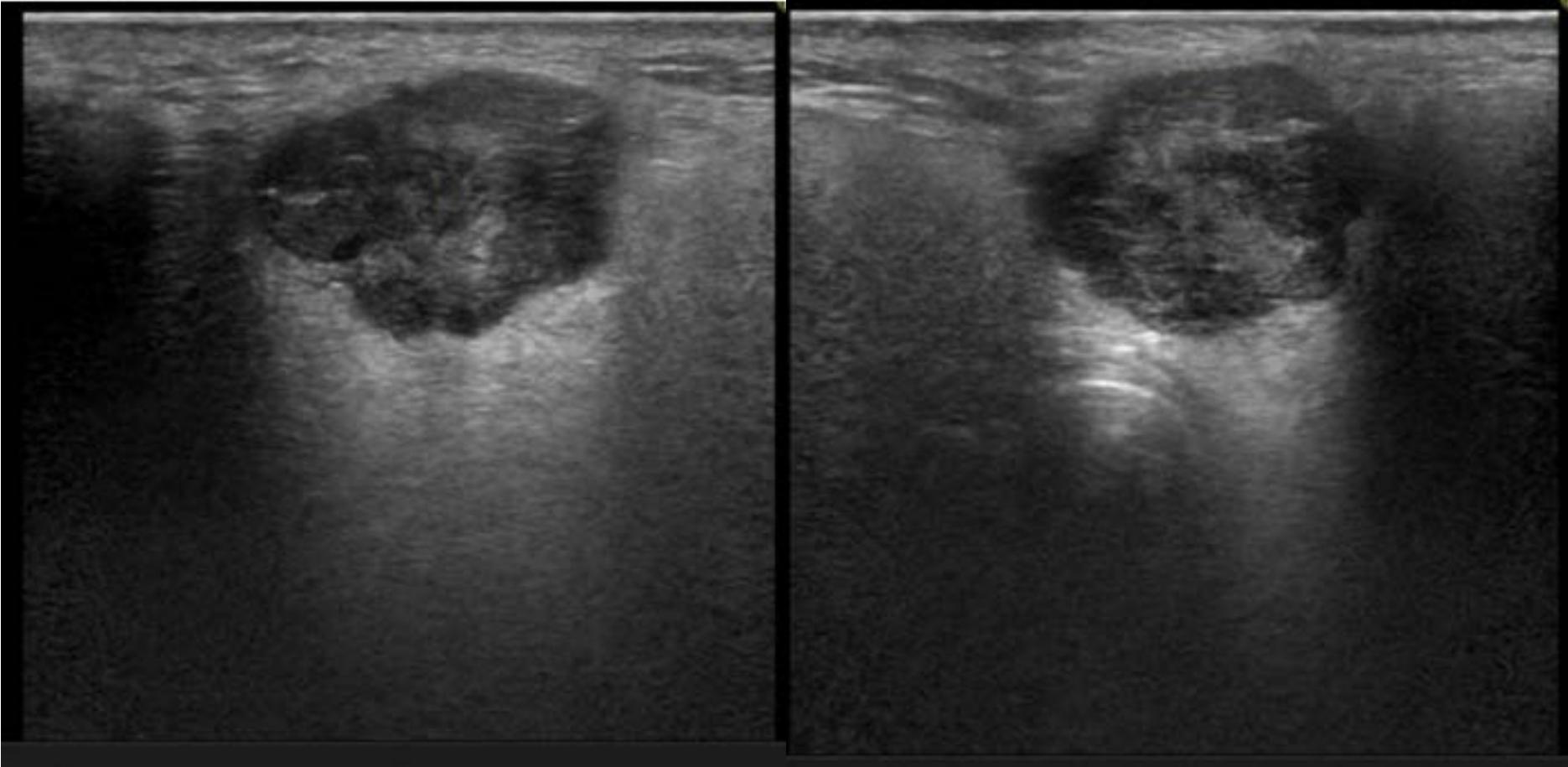
# 唾液腺導管癌

- ・乳管癌に類似した侵襲性の腺癌と定義されている
- ・全唾液腺腫瘍の約2%と報告されている
- ・50～60歳代の男性に好発する
- ・男女比は4:1
- ・耳下腺に好発する

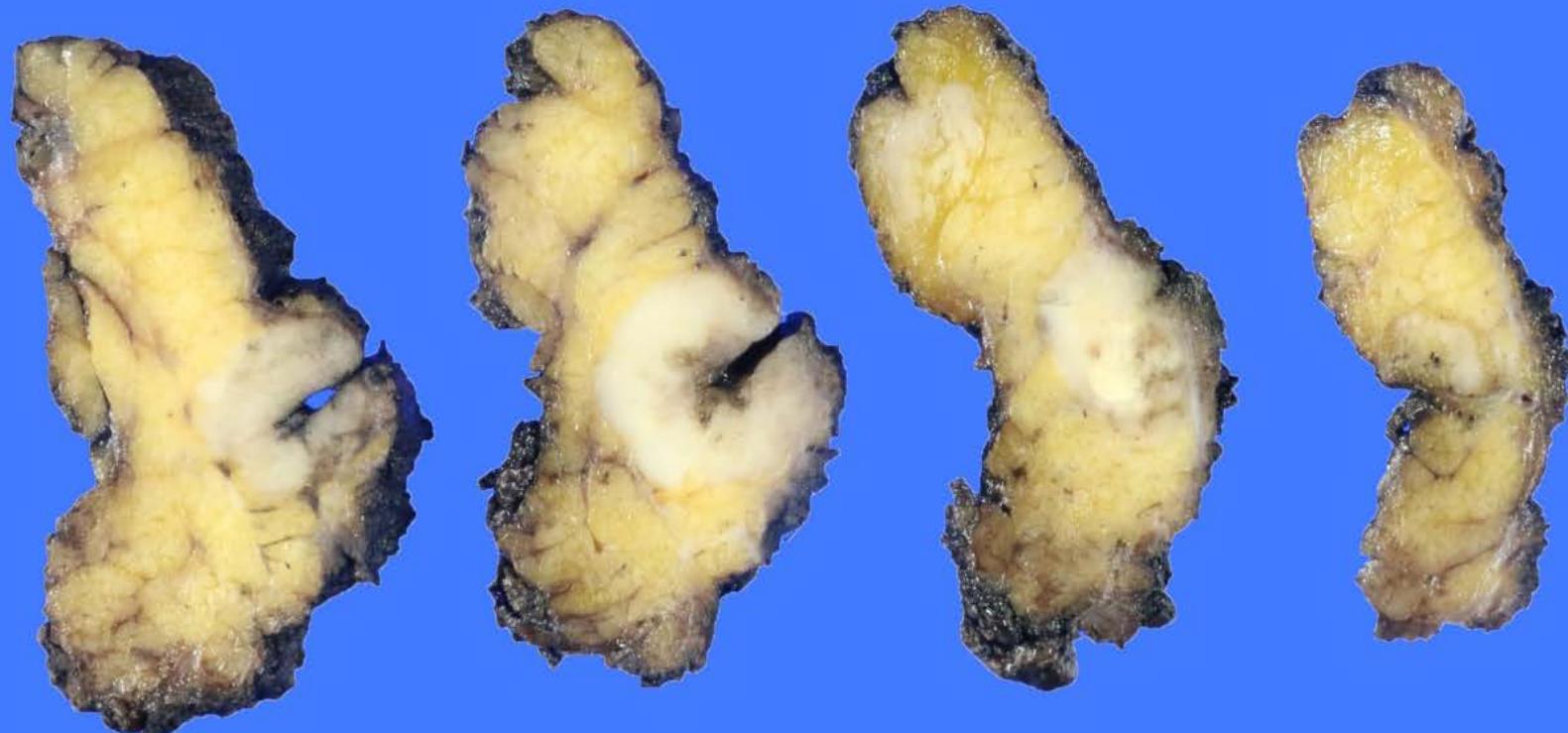
- ・急速に増大し、顔面神経麻痺や疼痛を伴うことがある
- ・先行病変として多形腺腫から発生する症例も少なくない
- ・頸部リンパ節転移や遠隔転移が高率にみられ、予後不良とされる
- ・5～7年以内に75%が死亡すると報告されている

# 細胞学的所見

- ・壊死性背景に、異型細胞が重積集塊や孤立性に出現する
- ・細胞質は豊富で、ライトグリーン好性の顆粒状を呈する
- ・N/C比が低い細胞や、細胞密度の高い集塊など、多彩な像を示す
- ・著明な核小体を認める症例もある
- ・乳腺のアポクリン癌に類似した像を呈することがある

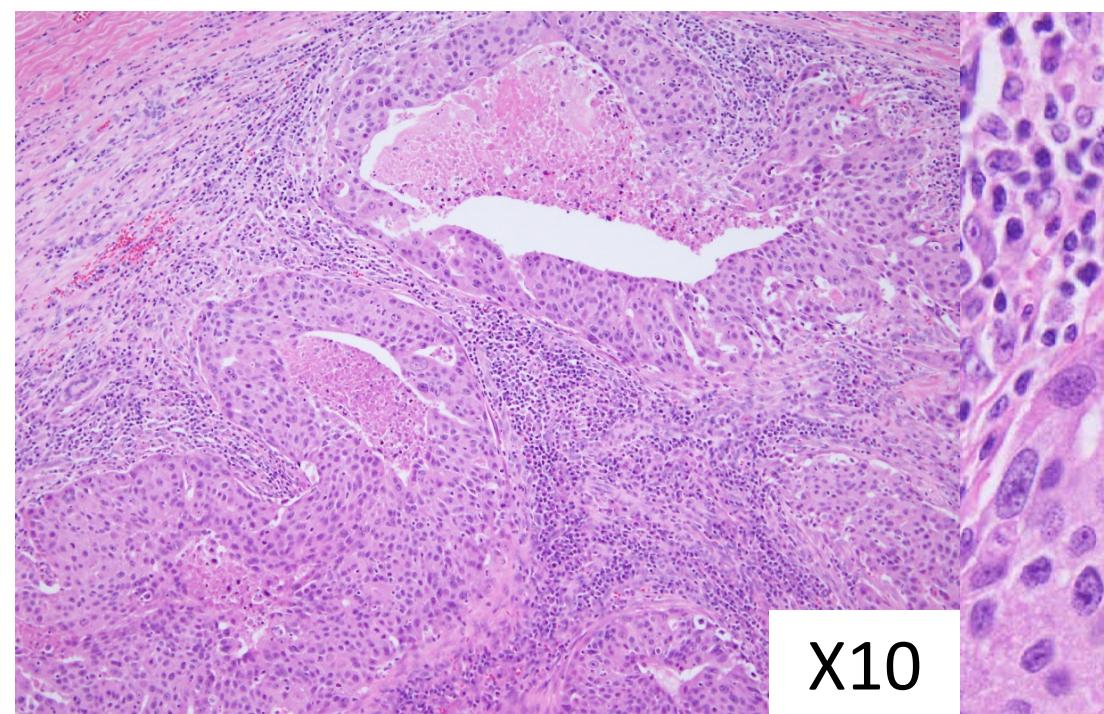


- ・やや境界不明瞭
- ・高・低エコーが混在

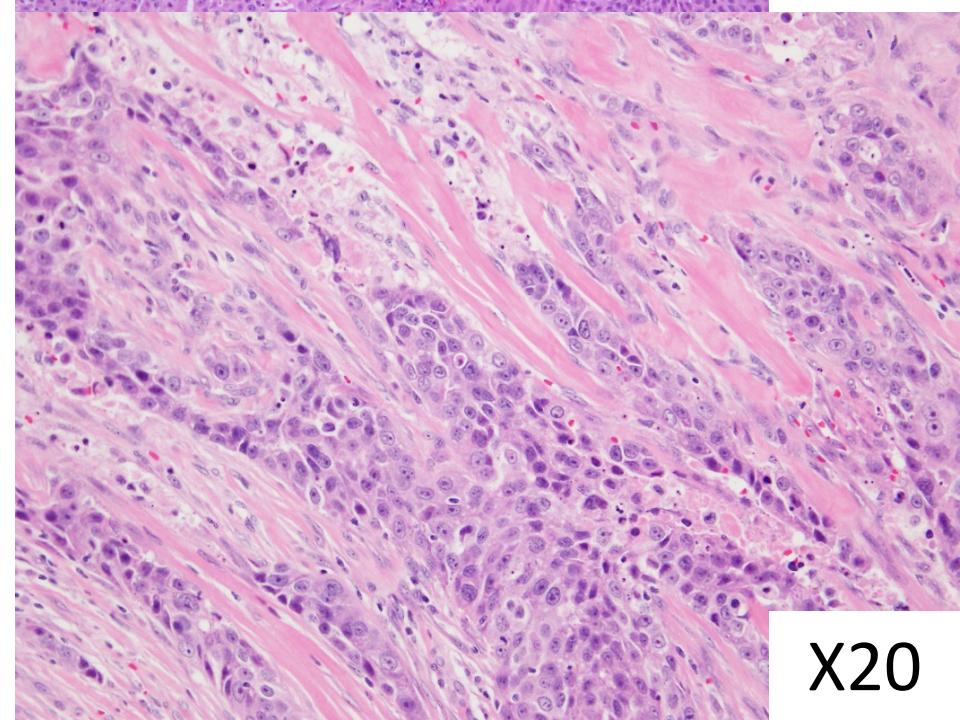


16x18x25mm大の白色充実性腫瘍

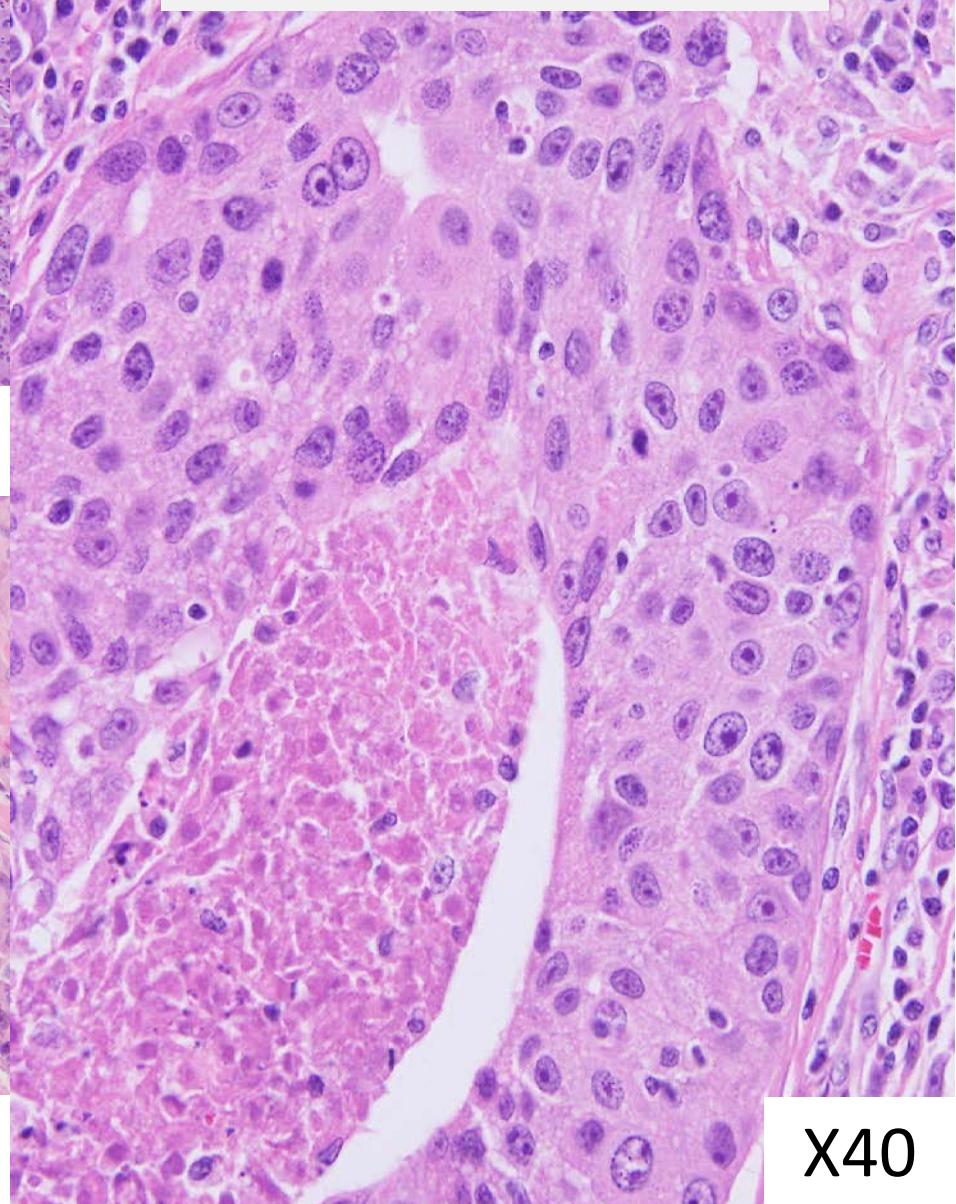
# 本症例



X10



X20



X40

典型例

X10

典型例

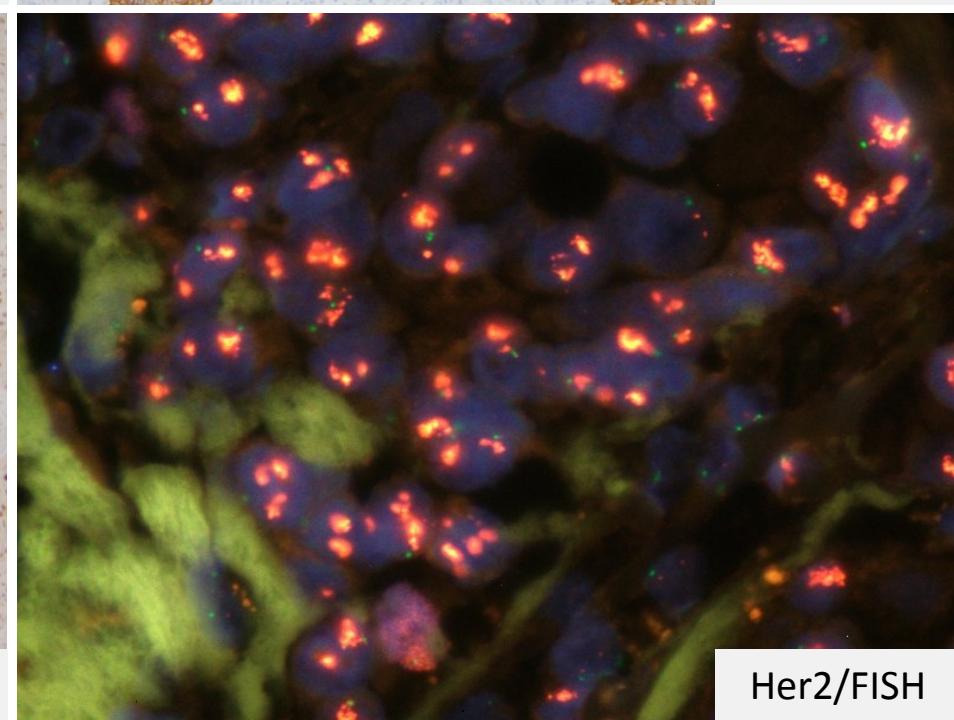
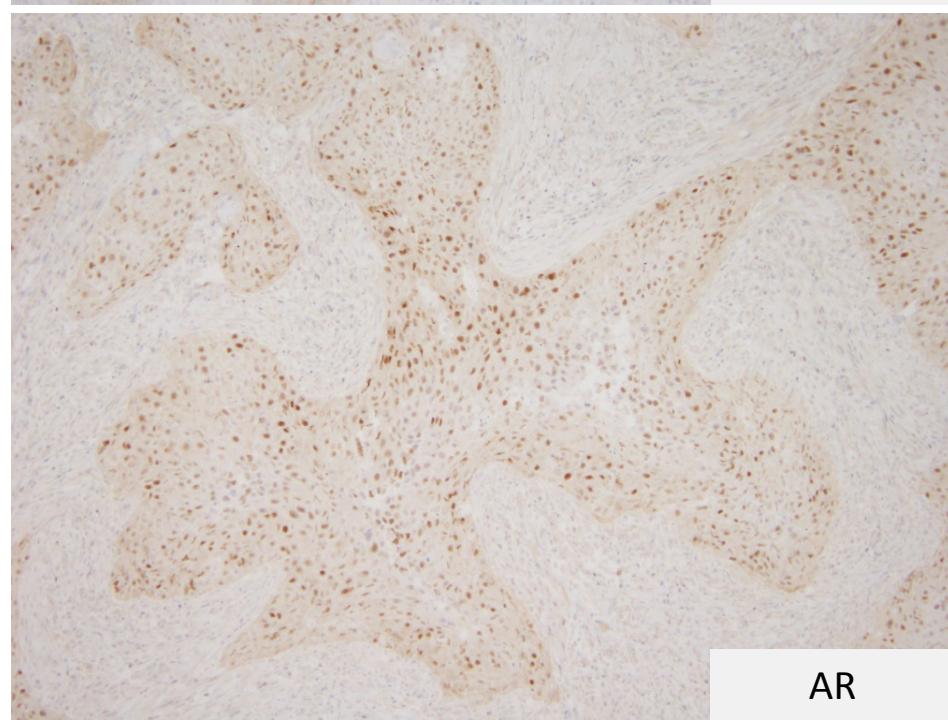
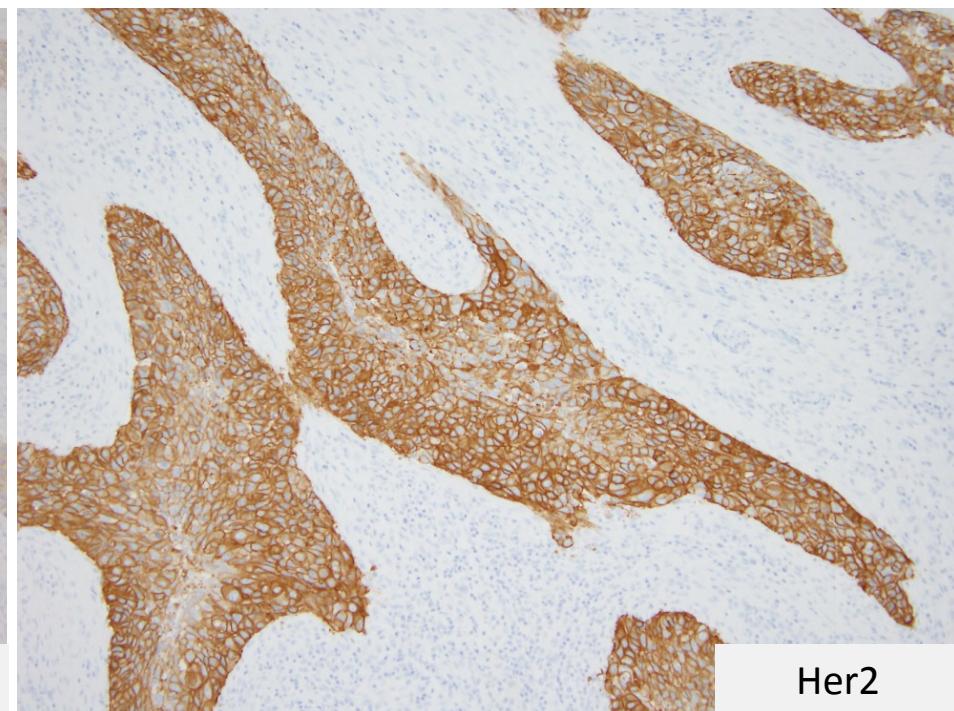
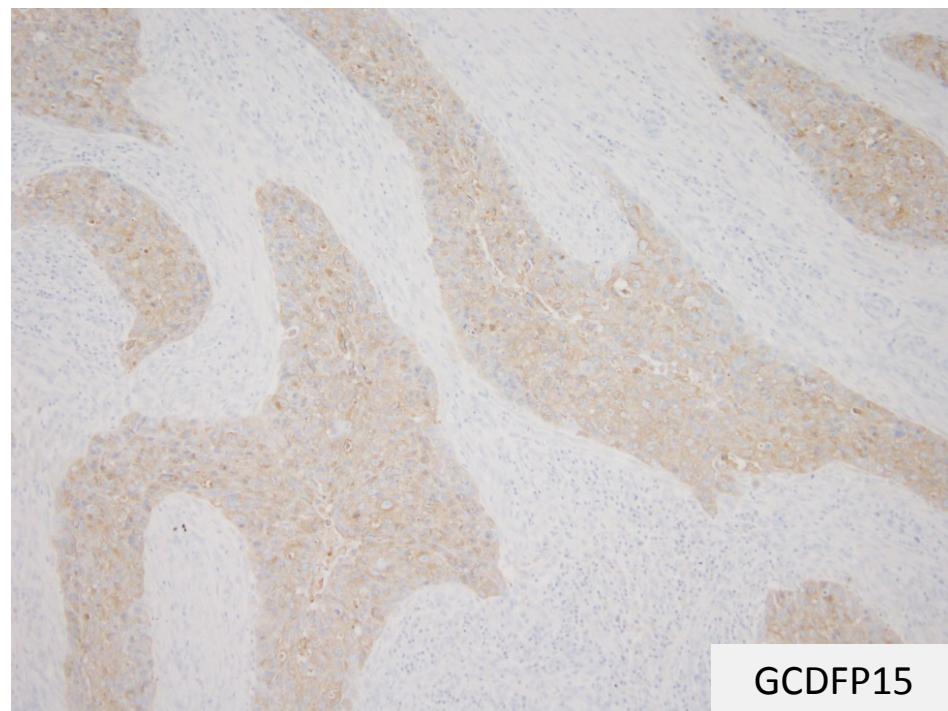
X20

## 【免疫染色】

## 本症例

文献<sup>1)</sup>から引用

CAM5.2	+	+
EMA	+	+
AR	+	高頻度に陽性
GCDFP15	+	高頻度に陽性
Her2	Score3相当	25-30%の症例で陽性
Her2/FISH	增幅あり	Her2と同様
ER	-	-
PgR	-	-
p53	-	約30%の症例で陽性
α-SMA	-	-
p63	-	-
CK14	-	-
S-100	-	-
PSA	-	陽性を示すことがある
CEA	-	高率に陽性を示すこともある



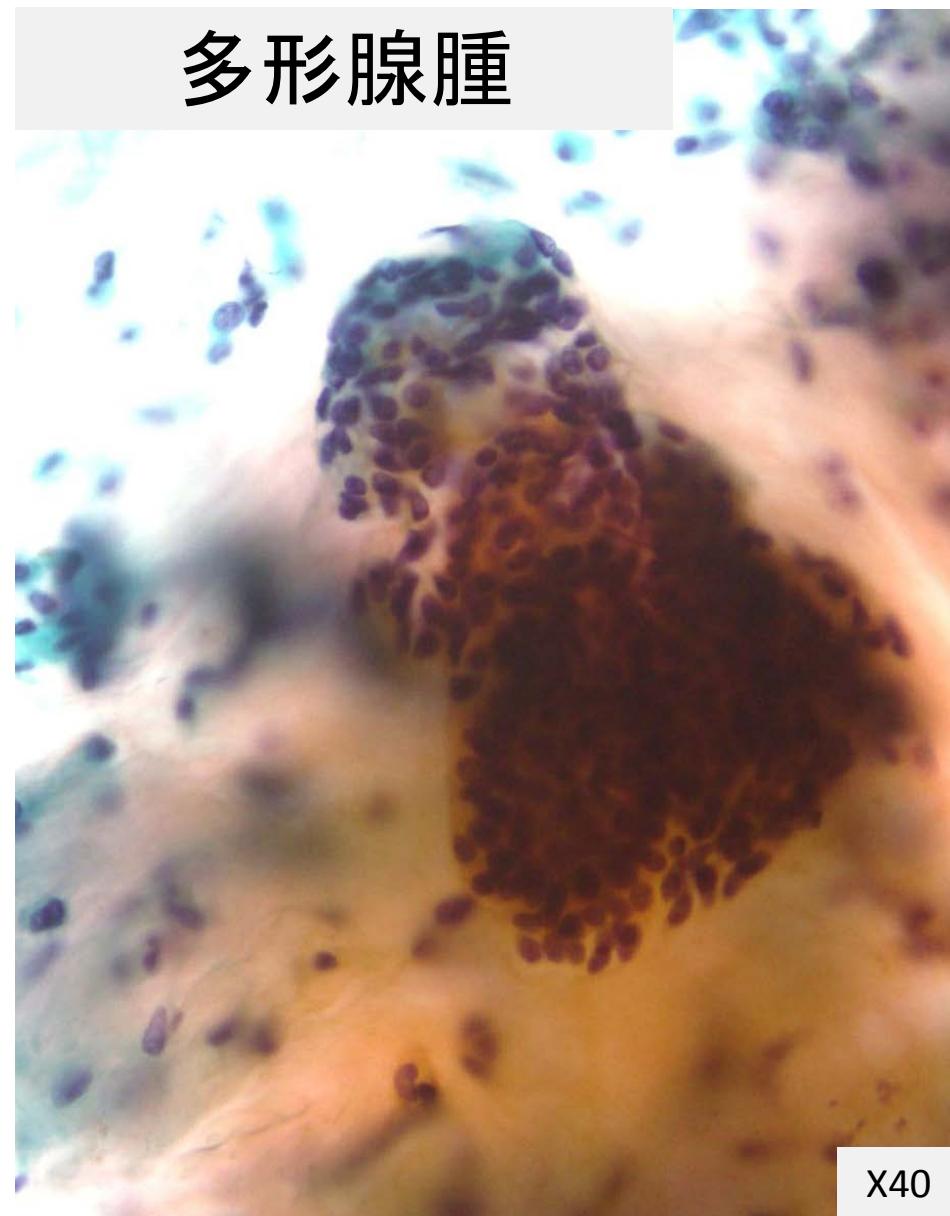
# 鑑別疾患

# 多形腺腫

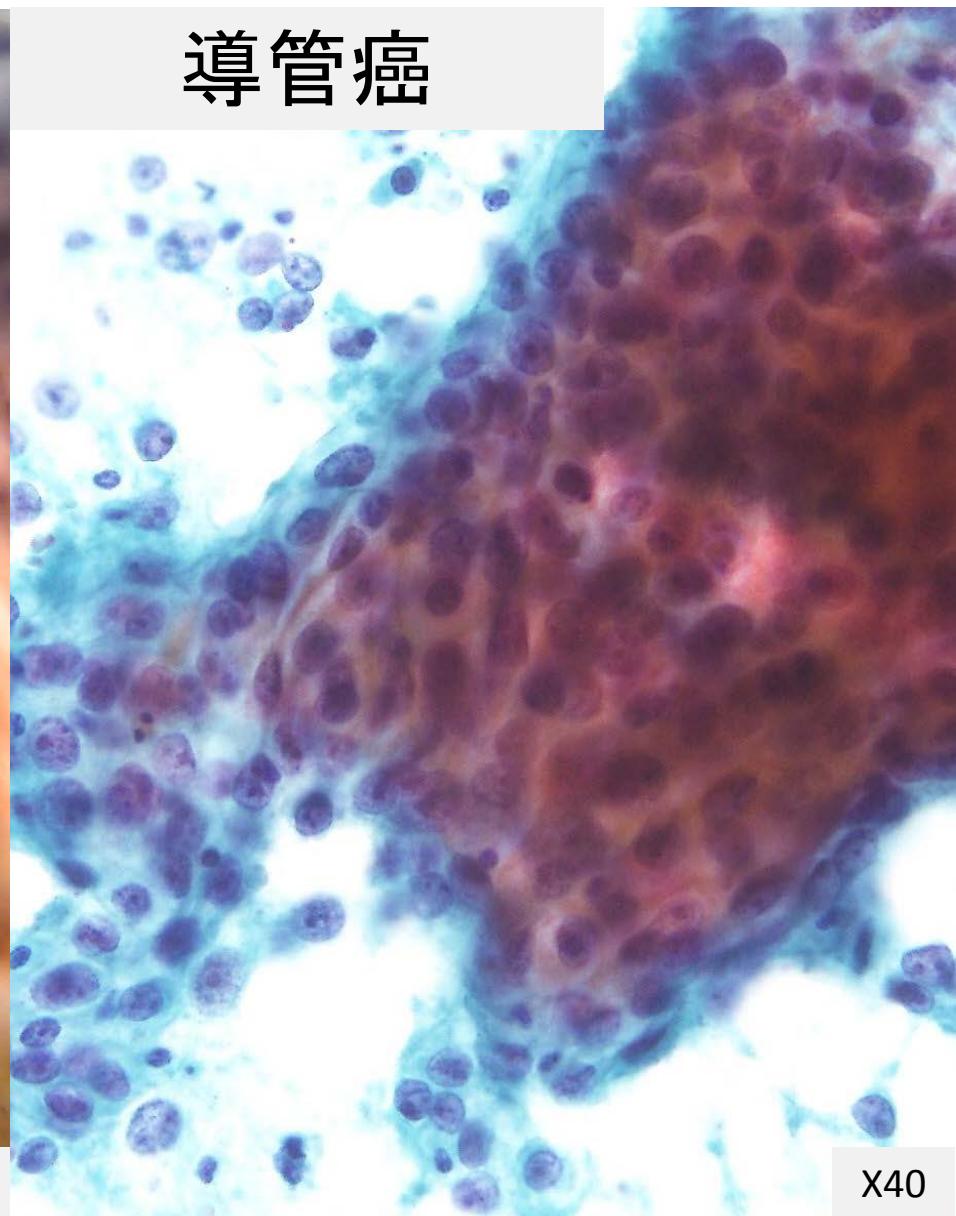
X10

# 多形腺腫

# 導管癌

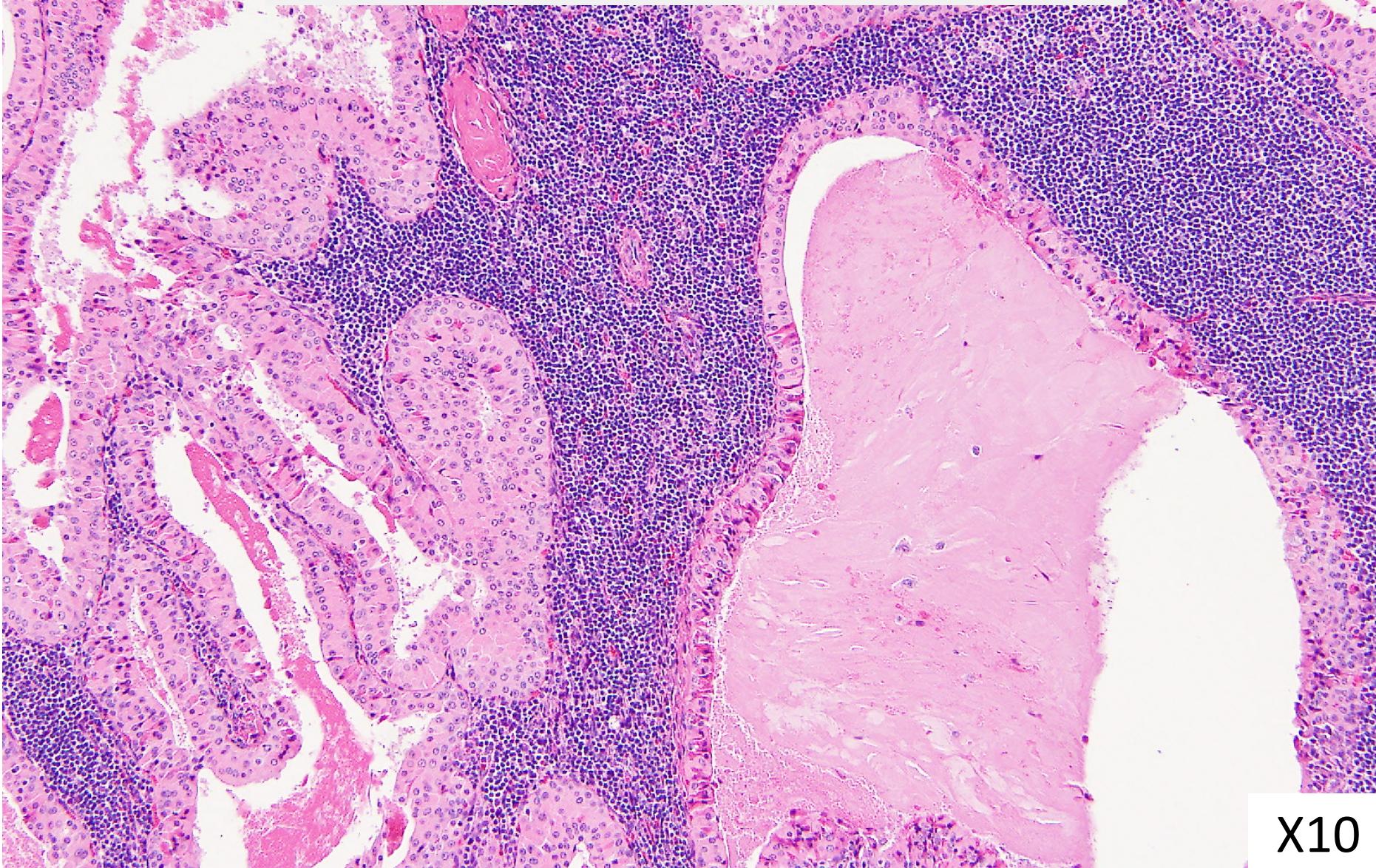


粘液腫様間質と筋上皮細胞  
腺上皮集塊に異型は見られない



背景は壊死物質  
腫瘍性筋上皮細胞は見られない  
腺上皮集塊には核腫大を認める

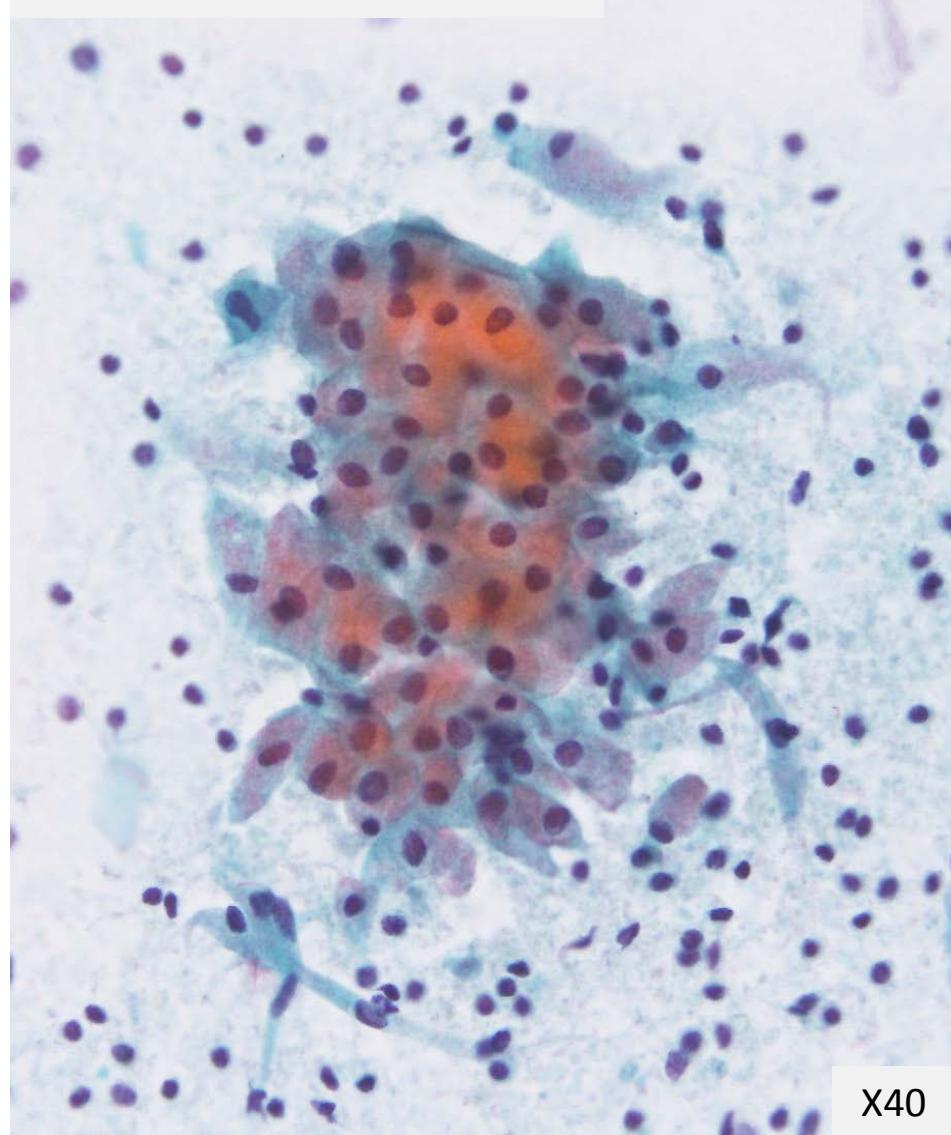
# ワルチン腫瘍



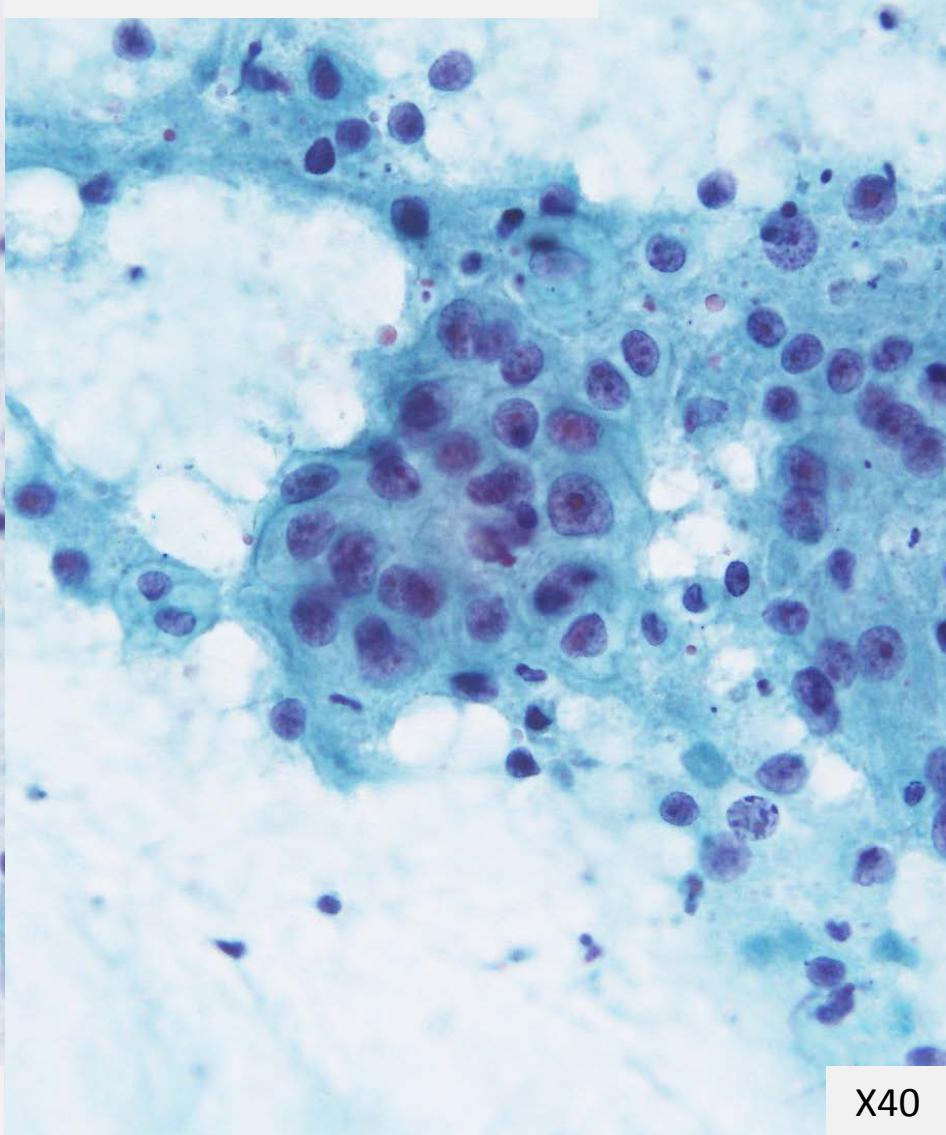
X10

# ワルチン腫瘍

# 導管癌



リンパ球優位の背景  
核小体は目立たず、N/C比は低い



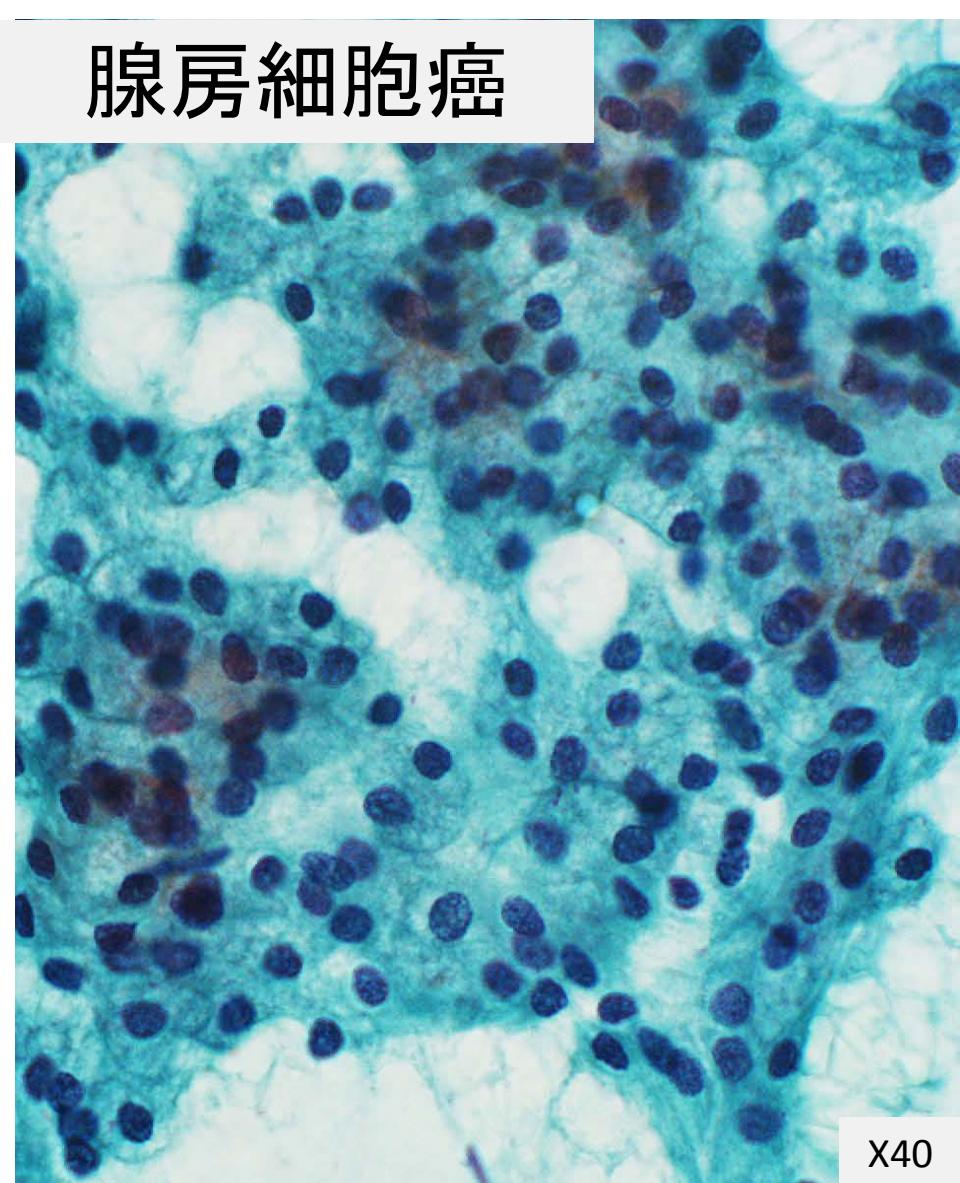
壊死など汚い背景  
核小体が目立ち、核腫大を認める

# 腺房細胞癌

X20

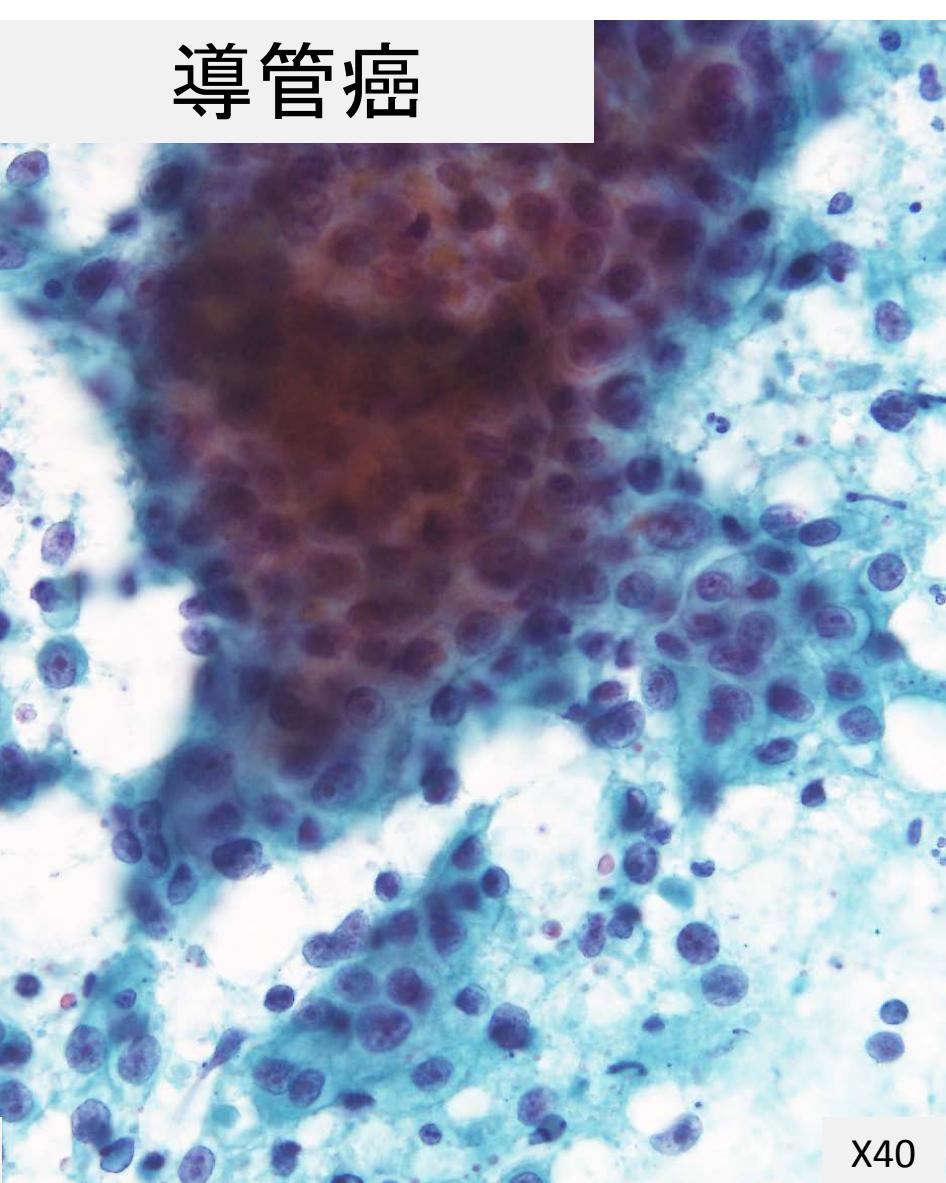
# 腺房細胞癌

# 導管癌



X40

正常腺房に比して核間距離が不整  
腺房の境界が不明瞭  
腫瘍細胞の核異型は乏しい



X40

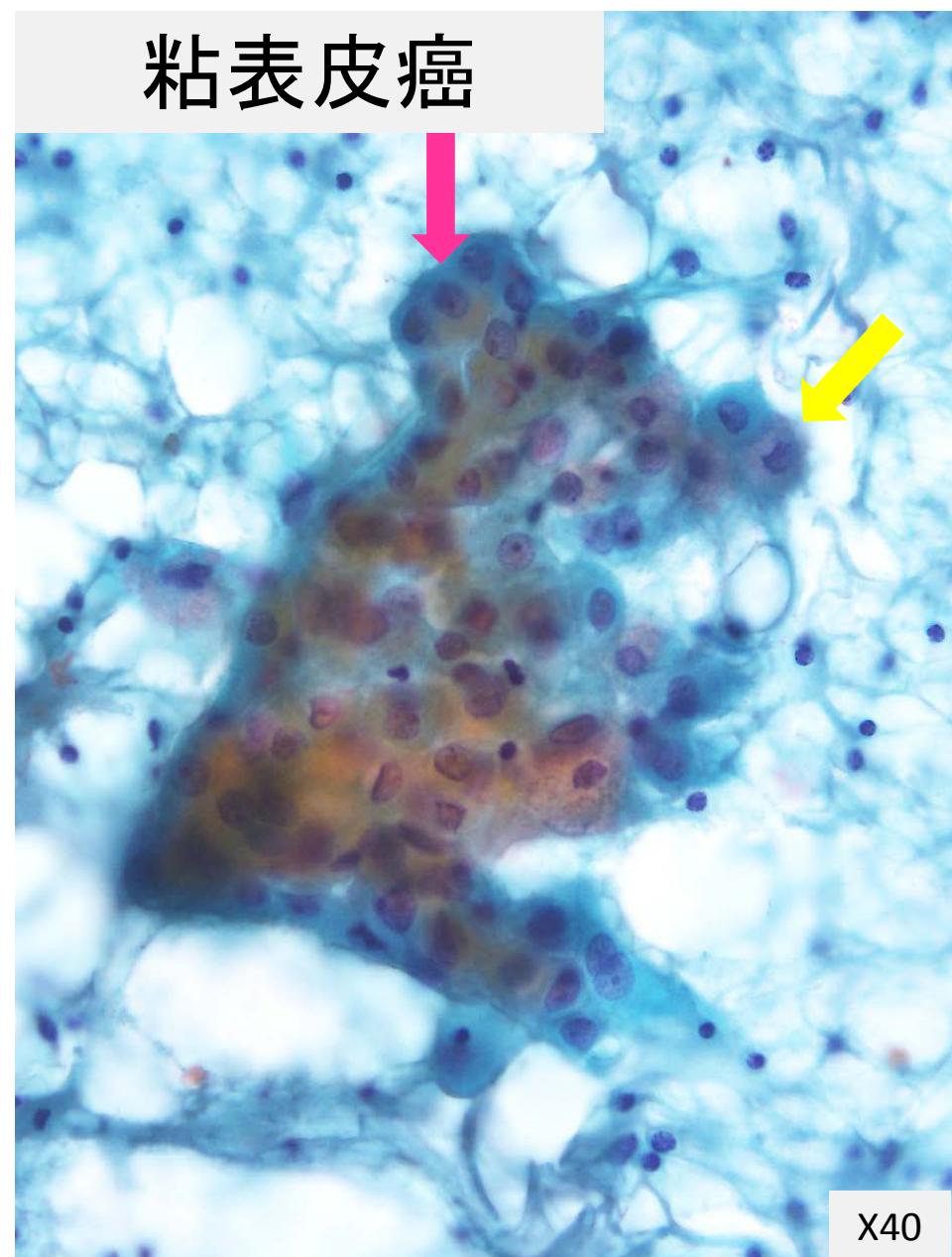
核の大きさ、核形不整  
核小体の腫大がみられる

# 粘表皮癌

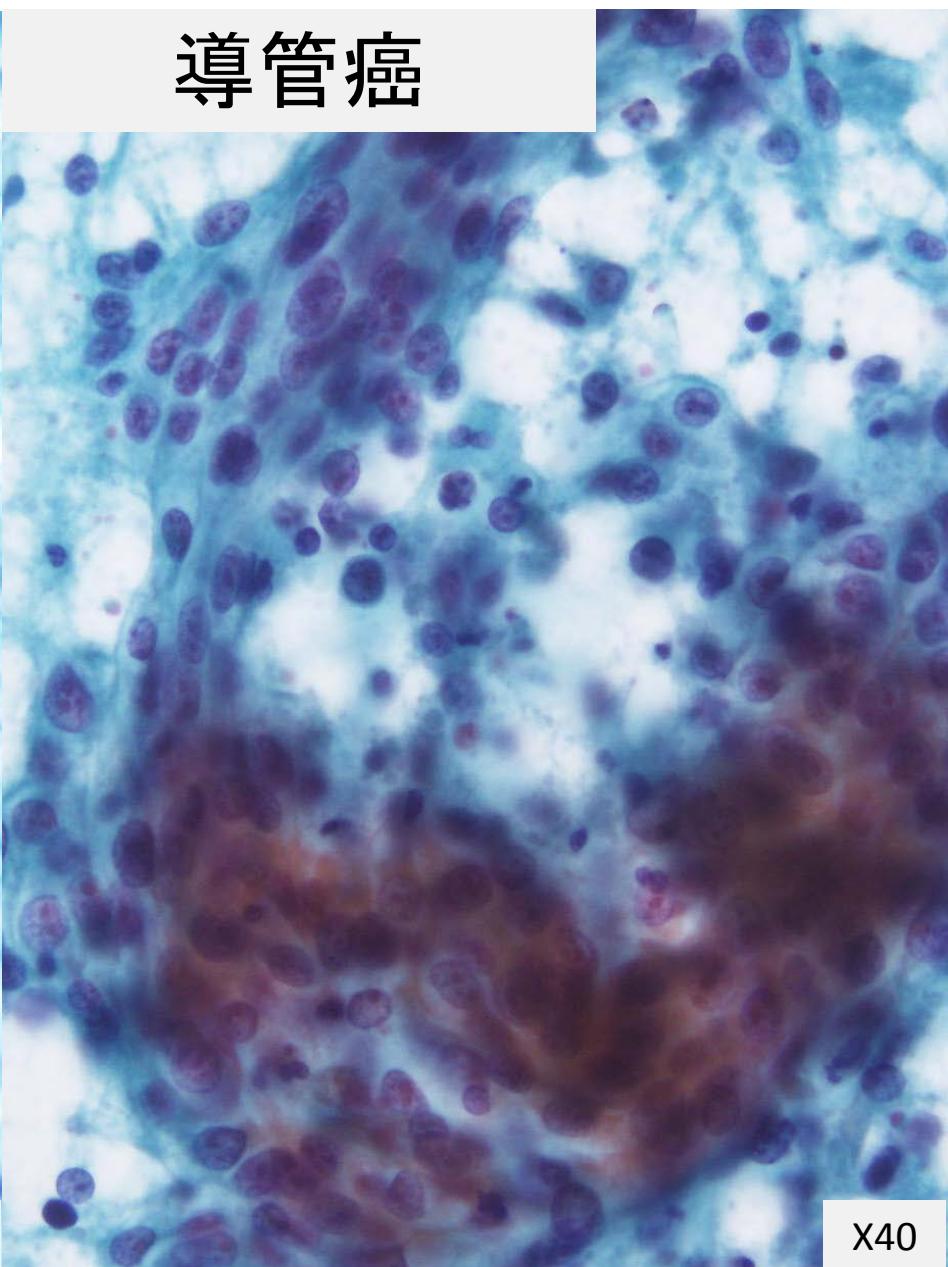
X10

粘表皮癌

導管癌



粘液產生細胞や扁平上皮様細胞  
中間細胞の出現



粘液產生細胞は見られない

乳癌

導管癌

X40

X40

細胞像から、乳癌の転移を疑うのは難しいと考える  
臨床情報や既往歴などが重要

# まとめ

唾液腺腫瘍の細胞診では類似細胞所見が多いため、一つの細胞所見のみにとらわれず臨床情報や組織像を念頭に入れ総合的な判断が必要と考えます。